

## D I ニュース

薬剤部 薬品情報係

## 新規採用医薬品通知

| 薬品名   | 効能・効果   | 備考  |
|---|---|---|
| アトワゴリバース静注シリンジ 6mL<br>AtvagoReverse Intravenous Injection<br>Syringe 6mL<br>1筒:<br>ネオスチグミンメチル硫酸塩 2.0mg<br>アトロピン硫酸塩水和物 1.0mg<br>(テルモ)<br>薬価収載日 2008年9月<br>薬価 1筒:615.00<br>薬効分類コード 87 1233<br>薬効区分 副交換神経興奮剤 | 非脱分極性筋弛緩剤の作用の拮抗<br>用法・用量<br>通常、成人には1回 1.5～6mL(ネオスチグミンメチル硫酸塩として0.5～2.0mg、アトロピン硫酸塩水和物として0.25～1.0mg)を緩徐に静脈内注射する。<br>なお、年齢、症状により適宜増減する。   | <b>【禁忌】</b> ①消化管又は尿路の器質的閉塞のある患者、②本剤の成分に対し過敏症の既往のある患者、③迷走神経緊張症の患者、④脱分極性筋弛緩剤を投与中の患者、⑤緑内障の患者、⑥前立腺肥大による排尿障害のある患者、⑦麻痺性イレウスの患者<br><b>【相互作用】</b><br><b>併用禁忌:</b> 脱分極性筋弛緩剤(スキサメトニウム 商品名サクシン、レラキシン)<br>●本剤の作用減弱: 副交感神経抑制剤 プラドキシムヨウ化メチル<br>●他剤の作用増強: ジギタリス製剤<br>●相乗作用: コリン作動性薬<br>●相加作用: 抗コリン作用を有する薬剤 MAO 阻害薬<br><b>【副作用】</b><br><b>重</b> コリン作動性クリーゼ、不整脈、ショック、アナフィラキシー様症状<br><b>他</b> 過敏症状、腹痛など   |
| 薬品名   | 効能・効果   | 備考  |
| フェンタニル注射液 0.1mg・0.5mg「ヤンセン」<br>Fentanyl Injection<br>1A: フェンタニル 0.1mg・0.5mg<br>(ヤンセンファーマ)<br>薬価収載日 2009年5月<br>薬価<br>0.1mg 1A: 245.00<br>0.5mg 1A: 1126.00<br>薬効分類コード 87 8219<br>薬効区分 麻酔用鎮痛剤               | (1)全身麻酔、全身麻酔における鎮痛<br>(2)局所麻酔における鎮痛の補助<br>(3)激しい疼痛(術後疼痛、癌性疼痛など)に対する鎮痛<br>用法・用量<br>通常成人は下記用量を用いる。なお、患者の年齢・症状に応じて適宜増減する。<br><b>(1)全身麻酔、全身麻酔における鎮痛</b><br><b>【バランス麻酔に用いる場合】</b> 麻酔導入時フェンタニル注射液として0.03～0.16mL/kg(フェンタニルとして1.5～8μg/kg)を緩徐に静注するか、又はブドウ糖液などに希釈して点滴静注する。麻酔維持ブドウ糖液などに希釈して、下記1又は2により投与する。<br>1.間欠投与 フェンタニル注射液として0.5～1mL(フェンタニルとして25～50μg)ずつ静注する。<br>2.持続投与 フェンタニル注射液として0.01～0.1mL/kg/h(フェンタニルとして0.5～5μg/kg/h)の速さで点滴静注する。<br><b>【大量フェンタニル麻酔に用いる場</b> | <b>【禁忌】</b> (次の患者には投与しないこと)<br>○印は各投与方法での該当する項目<br>①注射部位又はその周辺に炎症のある患者[硬膜外投与及びくも膜下投与により化膿性髄膜炎症状を起こすことがある。]<br>投与方法 硬膜外投与:○ くも膜下投与:○<br>②敗血症の患者[硬膜外投与及びくも膜下投与により敗血症性の髄膜炎を生じるおそれがある。]<br>投与方法 硬膜外投与:○くも膜下投与:○<br>③中枢神経系疾患(髄膜炎、灰白脊髄炎、脊髄痙等)の患者[くも膜下投与により病状が悪化するおそれがある。]<br>投与方法 くも膜下投与:○<br>④脊髄・脊椎に結核、脊椎炎及び転移性腫瘍等の活動性疾患のある患者[くも膜下投与により病状が悪化するおそれがある。]<br>投与方法 くも膜下投与:○<br>⑤筋弛緩剤の使用が禁忌の患者<br>投与方法 静脈内投与:○ 硬膜外投与:○ くも膜下投与:○<br>⑥本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者<br>投与方法 静脈内投与:○ 硬膜外投与:○ くも |

合]

麻酔導入時フェンタニル注射液として 0.4~3mL/kg(フェンタニルとして 20~150 μg/kg)を緩徐に静注するか、又はブドウ糖液などに希釈して点滴静注する。

麻酔維持 必要に応じて、ブドウ糖液などに希釈して、フェンタニル注射液として 0.4~0.8mL/kg/h(フェンタニルとして 20~40 μg/kg/h)の速さで点滴静注する。

(2) 局所麻酔における鎮痛の補助

フェンタニル注射液として 0.02~0.06mL/kg(フェンタニルとして 1~3 μg/kg)を静注する。

(3) 激しい疼痛(術後疼痛、癌性疼痛など)に対する鎮痛

【静脈内投与の場合】

フェンタニル注射液として 0.02~0.04mL/kg(フェンタニルとして 1~2 μg/kg)を緩徐に静注後、フェンタニル注射液として 0.02~0.04mL/kg/h(フェンタニルとして 1~2 μg/kg/h)の速さで点滴静注する。

【硬膜外投与の場合】

単回投与法

フェンタニル注射液として 1回 0.5~2mL(フェンタニルとして 1回 25~100 μg)を硬膜外腔に注入する。

持続注入法 フェンタニル注射液として 0.5~2mL/h(フェンタニルとして 25~100 μg/h)の速さで硬膜外腔に持続注入する。

【くも膜下投与の場合】

単回投与法 フェンタニル注射液として 1回 0.1~0.5mL(フェンタニルとして 1回 5~25 μg)をくも膜下腔に注入する。

膜下投与:○

⑦頭部外傷、脳腫瘍等による昏睡状態のような呼吸抑制を起こしやすい患者[フェンタニル投与により重篤な呼吸抑制が起こることがある。]

投与方法 静脈内投与:○ 硬膜外投与:○ くも膜下投与:○

⑧痙攣発作の既往歴のある患者[麻酔導入中に痙攣が起こることがある。]

投与方法 静脈内投与:○ 硬膜外投与:○ くも膜下投与:○

⑨2歳以下の乳児・小児[安全性が確立していない。]

投与方法 静脈内投与:○ 硬膜外投与:○ くも膜下投与:○

⑩喘息患者[気管支収縮が起こることがある。]

投与方法 静脈内投与:○ 硬膜外投与:○ くも膜下投与:○

**【相互作用】**

●本剤の作用増強:中枢神経抑制剤、吸入麻酔剤、MAO阻害剤、三環系抗うつ剤、骨格筋弛緩剤、鎮静抗ヒスタミン剤、アルコール、オピオイド剤、リトナビル

**【副作用】**

**重** 依存性、呼吸抑制、無呼吸、換気困難、血圧降下、ショック、アナフィラキシー様症状、不整脈、期外収縮、心停止、興奮、筋強直、チアノーゼ

| 薬品名  | 効能・効果  | 備考   |
|--|--|--|
| 乳石錠 500mg「マイラン」<br>Calcium Lactate Tab<br>1錠:乳酸カルシウム水和物 500mg<br>(マイラン製薬)<br>薬価収載日 2008年2月<br>薬価 1T:6.10<br>薬効分類コード 87 3211<br>薬効区分 カルシウム剤 | (1)低カルシウム血症に起因する下記症候の改善 テタニー<br>(2)下記代謝性骨疾患におけるカルシウム補給 妊婦・産婦の骨軟化症<br>(3)発育期におけるカルシウム補給 | <b>【禁忌】</b> 高カルシウム血症の患者、腎結石のある患者、重篤な腎不全のある患者<br><b>【相互作用】</b><br>●他剤の作用増強:ジギタリス製剤(ジゴキシン、ジギトキシン)<br>●他剤の作用減弱:テトラサイクリン系抗生物質(テトラサイクリン)、ニューキノロン系抗菌薬(塩酸シプロキサシン、ノルフロキサシン、トシル酸トスフロキサシン) |
| <b>用法・用量</b>   |  |  |
| 乳酸カルシウム水和物として、通常成人 1回 1g(本剤 2錠)を 1日 2~5回経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。  |  | <b>【副作用】</b><br><b>他</b> 長期投与にて高カルシウム結症・結石症、便秘   |

## 医薬品変更通知

| 今回採用医薬品（採用）   | 従来採用医薬品（削除）   |
|---|---|
| <p>●7月1日より</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フェンタニル注射液 0.1mg・0.5mg「ヤンセン」</li> <li>・乳石錠 500mg「マイラン」</li> </ul> <p>●6月8日より</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・エトキシド点滴静注液 100mg「サンド」</li> <li>・イリノテカン塩酸塩点滴静注液 40mg「NK」</li> <li>・セフトアジジム静注用 1g「マルコ」</li> <li>・セフトリアキソンNa静注 1g「サンド」</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>フェンタニル注射 0.1mg/2mL「三共」</li> <li>乳酸カルシウム細粒</li> <li>ラストット注 100mg/5mL</li> <li>トポテシン注 40mg/2mL</li> <li>モダシン静注用 1g</li> <li>ロセフィン注 1g</li> </ul> |

## 削除医薬品通知

|                |     |
|----------------|-----|
| ●7月1日より        |     |
| ・ハイスコ注         | …削除 |
| ・新ドライアーゼ 1gヒート | …削除 |
| ・ユナシン錠 375mg   | …削除 |

## 適応追加

|                  |   |
|------------------|---|
| バリキサ錠 450mg      | 臓器移植（造血幹細胞移植も含む）・悪性腫瘍におけるサイトメガロウイルス感染症  |
| セレコックス錠 100mg    | 腰痛症、肩関節周囲炎、頸肩腕症候群、腱・腱鞘炎   |
| アムピゾーム点滴静注用 50mg | ムコール属、アブシジア属、リゾプス属、リゾムーコル属、クラドヒアロホーラ属、ホンセアカエア属、ヒアロホーラ属、エクソフィアラ属、コクシジオオイデス属、ヒストプラズマ属及びブラストミセス属による感染症 |
| ノルデイトロピン S 注5mg  | 骨端線閉鎖を伴わない SGA (small-for-gestational age) 性低身長症  |